

◆ 今週のコメント

- 破傷風の報告が1例(男性, 40歳代)あります。症状は筋肉のこわばり, 開口障害, 嚥下障害で, 推定感染地域は国内です。推定感染経路は創傷となっています。
- 風しんの報告が1例(女性, 20歳代)あります。症状は発疹, リンパ節腫脹で, 血清IGM抗体が検出されています。推定感染地域は国内, 推定感染経路は飛沫・飛沫核感染で, ワクチンは未接種です。
京都市の風しんの年間累積報告数は, 定点把握から全数把握疾患に変更された平成20年以降, 0～1例で推移していましたが, 本年はすでに5例目となっており, 全国でも平成23年以降報告数が増加しています。今後の動向に御注意ください。
- インフルエンザの定点当たり報告数は4.56(310例)で, 先週(4.72)とほぼ同じです。依然として過去5年平均値を上回っており, 行政区別では, 南区, 伏見区, 上京区等で先週より増加しています。
インフルエンザの発生状況の詳細は, 下記のホームページを御参照ください。
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000071285.html>

◆ 今週のトピックス: <感染性胃腸炎>

感染性胃腸炎の定点当たり報告数は9.61(394例)で, 先週(5.46)の約1.8倍となり, 過去5年平均値を上回っています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- 五類: 破傷風 1例【1月以降の累積報告数 1例】
- 五類: 風しん 1例【1月以降の累積報告数 5例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	4.56	310
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	9.61	394
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.98	40
	③ 水痘	0.78	32
	④ 突発性発しん	0.27	11
	⑤ 流行性耳下腺炎	0.15	6
眼科	流行性角結膜炎	0.60	6

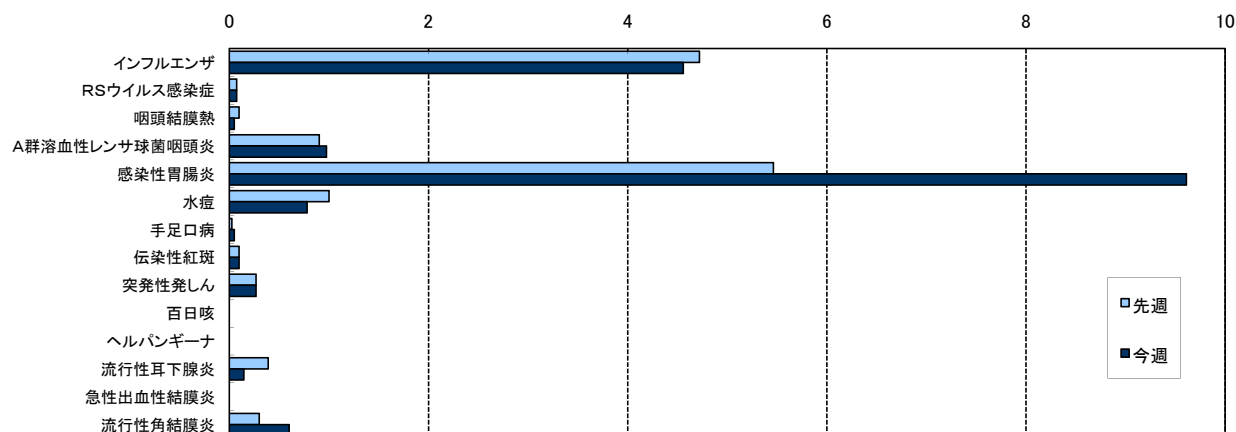
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <感染性胃腸炎>

(注) 京都市のデータは, 平成24年4月19日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。
また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。

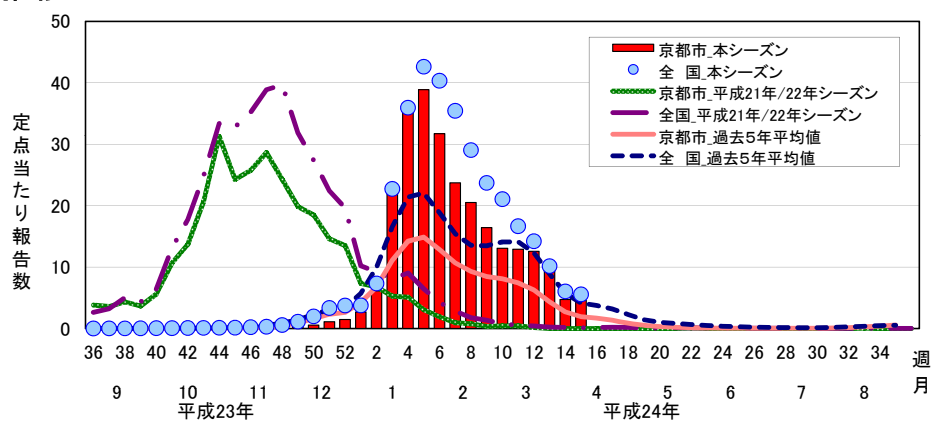
◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第15週)と先週(第14週)の定点当たり報告数の比較



2 インフルエンザの推移

週	報告数(例)
第11週	878
第12週	854
第13週	665
第14週	321
第15週	310
累積報告数 (第36週以降)	16,943

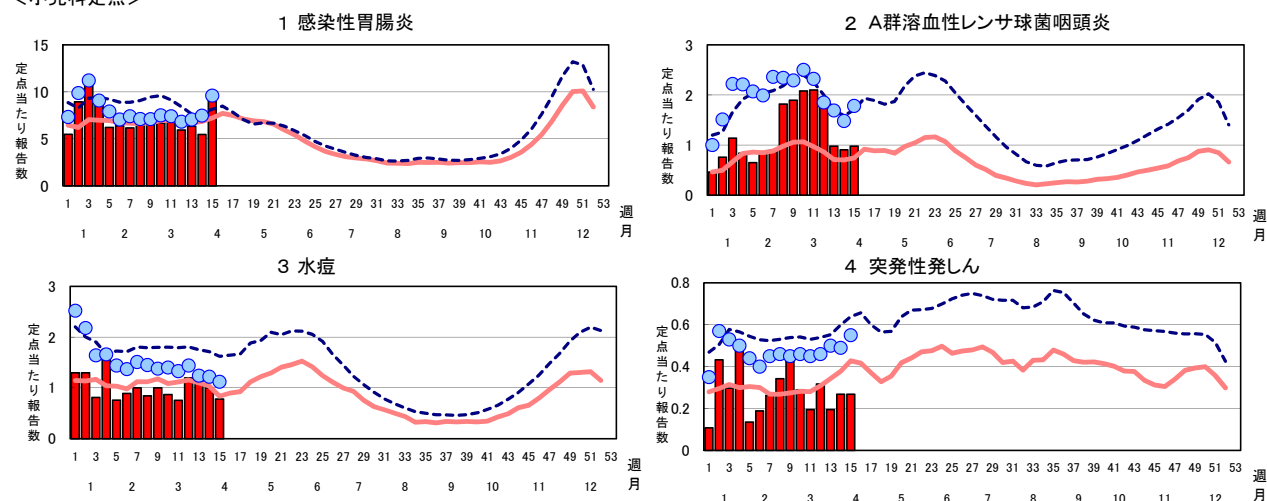


※京都市のインフルエンザ発生状況の詳細を下記に掲載しています。

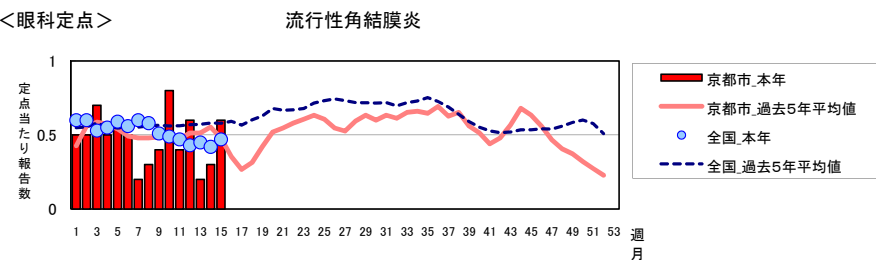
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000071285.html>

3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



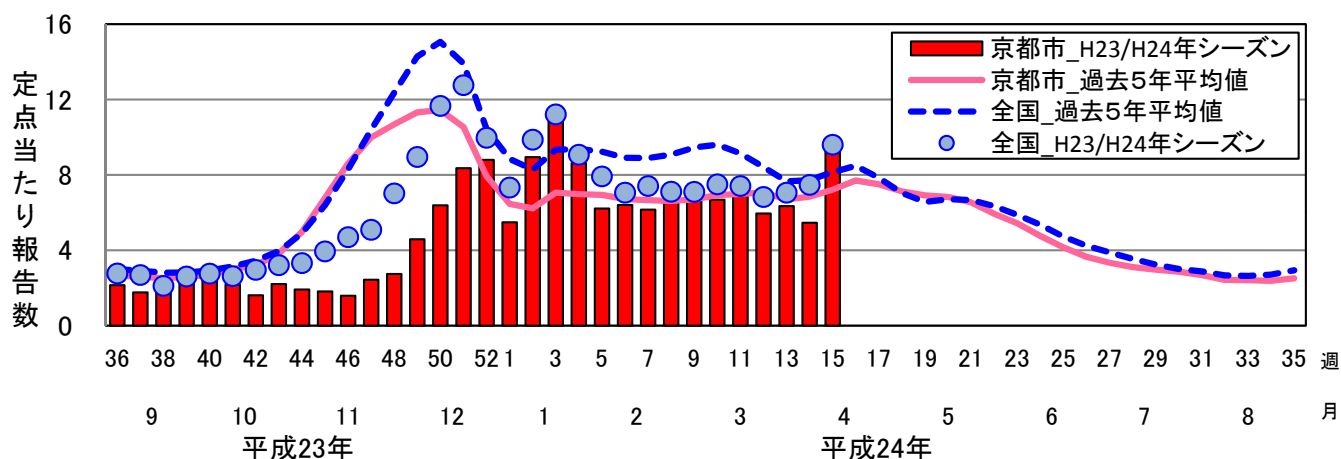
第15週(4月9日～4月15日)トピックス: <感染性胃腸炎>

感染性胃腸炎の定点当たり報告数は、9.61(394例)で、先週(5.46)の約1.8倍となり、過去5年平均値を上回っています。

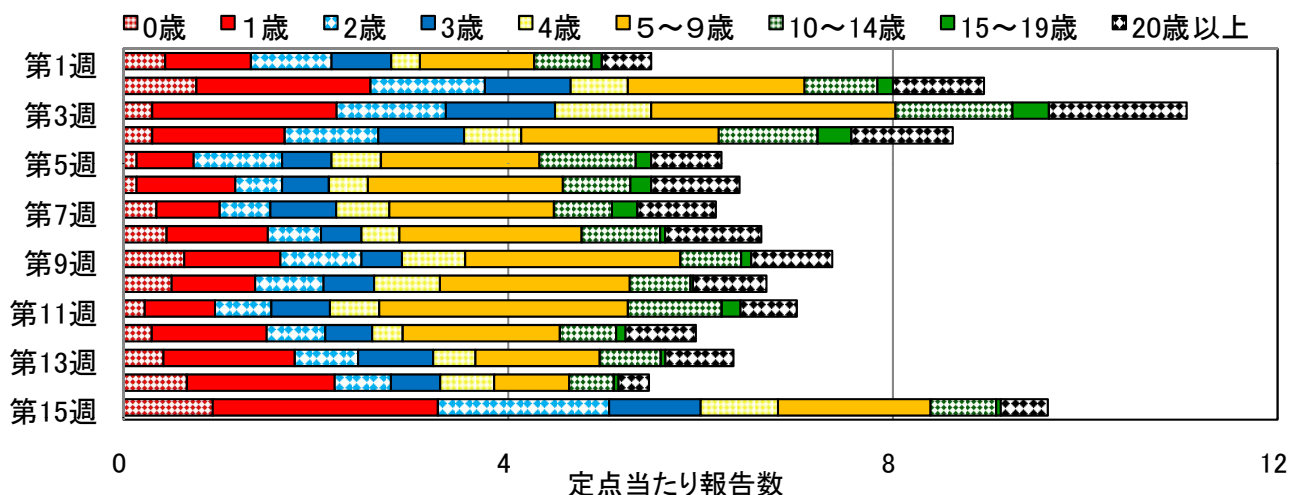
年齢階級別では、1歳が96例(24.4%)と最も多く、次いで2歳 73例(18.5%)、3歳 39例(9.9%)で3歳以下が62.4%を占めています。1歳未満の報告数は第12週(3月19日～3月25日)以降連続して増加しています。また、2歳の報告数は第15週に急増しました。

京都市衛生環境研究所で受け付けた感染性胃腸炎の検体からのウイルスの検出状況をみると、2月まではノロウイルスGⅡが最も多く検出されていましたが、3月以降ロタウイルスの検出数が増加しています。

本市及び全国の定点当たり報告数の推移



年齢階級別報告数の推移



感染性胃腸炎から検出されたウイルスの推移(京都市)

